

74新破天荒



第七十二回卒業生にあたり

姫路南高校七十二回生のみならず、世の令和四年度高等学校卒業生の皆さん、卒業生達に関わられた保護者、関係者の皆様に置かれましては、ご卒業の節目に当たり、心からお慶び申し上げます。本当におめでとうございます。

七十四回生の皆さんに理解してもらいたいことがあります。もし、自分達の高校生活が窮屈で不満の多いものであるとしたら、あなた達と一年をとともに姫路南高校での生活を共有した七十二回生の先輩は、入学後二ヶ月間、空白の姫路南高校生活を余儀なくされました。それでも姫路南高校生としての一躍を担って、後輩の皆さんに姫路南高校の伝統を繋ぎ、巣立っていかれたことを。

人生には色々な運命もあります。宿命もあります。ただ、七十四回生の皆さんにとっては、不平、不満が言葉にできる環境である「いま」を、自身の人生にどう生かすかを考えたり、悩んだり、企画したりすることが出来る「幸せ」もあります。

この機会に、個人個人が「何を」「どう」進めていきたいのか、進めていく覚悟ができるか、歩き始めているかを感じて欲しいと思います。

令和二年二月末 突然の……

通達が、今は亡き元首相によって発せられました。当時、前任校では二学年主任として、修学旅行を終えて一ヶ月。新型コロナウイルスの話題が出始めた頃に実施した修学旅行を振り返りながら、学年末考査も折り返した頃でした。

学校が止まった！

今とは比べものにならない、ごく少数の新規感染者数でしたが、未知との闘いの為の水際対策として、学年末考査は打ち切り、次の登校がいつ迎えられるのか、新三年生団として、生徒達の進路保障とどのように向かい合えるのか……。

振り返れば、当時を笑いながら思い出すこともできますが、ここから五月末までのおよそ三ヶ月にもわたる闘いは、当事者としても二度と経験したくはありません。

生徒だけでなく、教員も出勤を妨げられるなか、学年団の先生方だけでなく、「何をしよう」ではなく「何が出来るか」「何をしたいか」「これを続けよう」という姿を、数多くの自宅待機を余儀なくされている生徒のために触れられたことは、自分の教師生活の大きな財産になりました。

転動しても、そのとき共に闘った卒業生が、時折姫路南高校を訪ねてくれるとき、「先生と生徒」ではなく、「同志」として同じ苦難を共有できた日のこと、卒業生達の「未来」には、これらの経験が「負」の要素ではなく「正」のエネルギーとして、卒業生達

を大きく成長させてくれているようです。立場を変えて、同じ「社会人」の立ち位置で話ができることを嬉しく感じられる、誇らしく思うことができるのは私だけではないはずです。

この七十四回生への学年通信が、第七十二回卒業生の目に触れることはほぼないと思いますが、このことを通じて、七十四回生の皆さんには、自分達を成長させるには、自分達の置かれている立場は大変恵まれていることを感じてもらえたら……。

そして、本当に「なりたい自分」に向けての歩みを着実に、メリハリを持って進めていきましょう。



三月の予定

- 一日(水) 午前中授業(①②⑤⑥限)
- 二日(木) 見返却テスト返却(第四限)
- 七日(火) 球技大会 教育相談
- 八日(水) 大掃除(四限目)
- 十日(金) 複教志願選抜入試
九～十二日午前まで 生徒登校禁止
- 十三日(月) 生徒休業日
(二月二十三日分代休)
- 十四日(火) スタディサポート・小論文模試
教育相談
- 十五日(水) スタディサポート等
- 十六日(木) スタディサポート等
数学コンテスト
- 十七日(金) 人権学習等
バリアフリー体験Ⅰ
- 二十日(月) バリアフリー体験Ⅱ
防災避難訓練
- 二十二日(水) 写真撮影・教科書販売
終業式
- 二十三日(木) 合格者招集

複教志願選抜入試以降の日程は、実力テストや学年・クラス行事が入ります。連絡等の聞き漏らしがないように。
四月の予定については、一学年最終号で連絡をします。

散歩道 74 クラスコード 51uczkw
Start 23 → 2022 last 36
2023 start 38 → Now 48



二月に開催された、兵庫県高等学校バレーボール新人大会女子の部において、女子バレーボール部が多くの私学強豪校等を相手に決勝進出を果たして、見事準優勝に輝きました

また、十二月に開催された近畿高等学校空手道新人大会の結果を受け、男子空手道部が全国高校選抜大会への出場が決定しました。

今号では、優秀選手に輝いた女子バレーボール部村上里緒さんに投稿をもらいました。男子空手道部には、大会後なので、二学年になってから投稿を予定しております。

次のステージで闘うために チームとして 日々新たに積み重ねることについて 1年4組 村上里緒

今回の大会で優勝するために、前回の春高予選で自分ができなかったこと、チーム全体での課題を考え、日々の練習に取り組んできました。

しかし、結果は準優勝でした。決勝戦で対戦した氷上高校との大きな差を痛感しました。「自分があのときにこういうプレーをしていたら」、「自分のあのミスがなかったら」。相手を見て、それぞれの場面にあった判断ができていなかったと感じました。前回の対戦よりもできることが増えても、もっとできていたのではないかという後悔と悔しさで、胸の中はいっぱいです。

次の県総体で優勝するためには、自分だけでなくチームとして、日々新たに積み重ねるということは、いつも尼ヶ塚先生が仰っている「一人一人の当たり前のレベルを上げる」ことです。今までは安定してできていなかったことも、完璧にできるようにします。

限られた練習時間で何ができるのかを突き詰め、いつ試合をしてもよい状態で、毎日の練習に取り組んでいきます。

卒業生が 伝えてくれること

二月上旬に、前任校の卒業生で、現在は京都工芸繊維大学で学んでいる卒業生が訪ねてくれました。自宅を通り越して、京都から直接母校ではない本校に足を運んでくれたことは嬉しい限りです。

来校前日には、京都方面に進学している同級生達（一人は福知山公立大学生、もう一人は高校入学時から京都工芸繊維大学進学を希望し、一浪して一年回り道をしたが、夢の第一歩を本年スタートした）と、京都の夜を楽しんで旧交を温めてきたようですが、その「週末からオーストラリアへ留学する前にお会いしたい」と言うのが、来校の要件でした。

今回の通信で先述した、対新型コロナウイルス感染に立ち向かった「戦友」です。久しぶりの再会にも拘わらず、こちらの都合で知らない場所でも三十分ほど待たせてしまい、申し訳ない限りでした。

それでも、嫌な顔一つせず、少し大人になった姿を前にして、色んな話をしました。気が付けば一時間余りの時間が、あっという間に過ぎました。

その中で、新たに確認させられたことや、卒業生に勇気をもたらえたこと、目の前の高校生達に伝えてと言われたことを紹介します。

「何をやらされるかではなく

何を求めて与えられているか」

課題は、提出ありきの作業になってしまえば苦痛ではない。例えば、週末課題を週末になってから始めるのか、やっつけてから週末を迎えるのか。そんな風に考え始めて課題に取り組み始めると、先生方の

その課題の意図を考えてみるようになり、その考えが意図に反していたとしても、課題と向かい合った事実から得た自信が、後々の「生活（学習）だけではない」に生きていきます。

「何を自分は求めていきたいか」

自分たちの可能性に、何を求められているのかを考えられるようになったとき、自分に対する明確な目標が生まれた。幸い、自分が学びたい分野の舞台を手に入れることができたが、今はそれだけでなく世の中に起こっていることを見て、何か役に立つかもしれない、「予備自衛官制度」を利用して訓練に参加していただきます。

頭が下がります。私自身、小さな不満に振り回されている場合ではないですね。

「自筆の解答は継続して」

「週末課題や長期休業中の課題は自作を継続してください。週末課題や考査の解答・解説はまだ自筆で解答は作成されていますか。先生方も共に解いて下さっているのだと、自分たちを励ます材料になるので、今の高校生たちにも続けてください。」

これは、約三十年前の生徒にも言われたことです。「手書き、筆圧」は、私にとっては教員生活で得た貴重な武器、生徒との信頼関係に繋がるものだと、確信できました。

「生徒から学ぶ」

私たちは、「教える」以上に「伝える」ことも大切にするので、生徒の皆さんからたくさん「学び」をフィードバックされているのだと、忘れずにいられた「瞬間」でもありました。

一月学力模試から

全国学力模試が、一月第三週に国語・数学・英語の三教科で実施されました。寒い中ではありましたが、全国大学入試センター共通テストの話題も耳にする時期でもあり、積極的に取り組んでくれたものと思います。

皆さんは、マナビジョンを通じて得意分野・強化ポイント等をチェックし、復習を心掛けましょう。

七十四回生の特徴として復習に重点を置くタイプなのか、もしくは、理解に時間をかける、興味関心が強い分野を主として、納得するまで時間をかけるタイプのです。各教科とも、じわじわと成果に結びつけている傾向も見られます。

ただ、個々人については、教科によって好き嫌いがはっきりし過ぎて、苦手というより「食わず嫌い」を通り越して、「手を出さない」傾向も多少見られるのは残念です。

高校入試とは違い、三年生夏休みからの準備ではとてでもないですが、自分の可能性の芽を摘んでしまいます。「今」を「どう」過ごすかも、不平を言わなければ、生活に困ることはない時代ですが、世の中から不平・不満が減らないのは何故だと思えますか？それは、皆さんの求める生活レベルが高いからです。

ならば、その要求レベルを叶えるためには「今」何が必要か？何を積み重ねる必要があるか？

各教科からのアドバイスを生かして、適切に日々の取り組みに生かそう。

国語

国語の学習において、最も取り組むべきことは、基礎基本の知識の習得です。思考力、判断力、表現力の土台になるのは知識です。

皆さんは、現段階では圧倒的に知識は不足しています。「現代の国語」なら、漢字を意味から判断して書けるようになること。「言語文化」なら、助動詞を接続のルールと共に判断できることなどが、達成の目標となるでしょう。

そのためには毎日解き続けることです。反復学習です。

さらに、課題に対する取り組み方を変えることでかなり学習効果が上がります。単に問題文を読み、問題を解き、解答を書き、答え合わせをするだけで終わらせず、何が間違っていたか、どの部分が減点だったのか、自分の弱点をしっかりと洗い出すようにしましょう。そして、理解ができなかった問題は、必ず解説を読んで、問題を解くときにどんなふうにかえればよかったのか分析しておくことが大切です。国語は、自分の思考力を鍛える科目です。毎日の生活の中で意識して「国語力」を鍛えましょう。

数学

演習の時間を決めよう。その間は教科書や参考書に頼っても、解答冊子には頼らないで。黒・赤一色、解答通りの解答記入にならないこと。

赤ペン使用は力の無さではなく、自分の「未知の知」を得る機会です。数学的能力を高めるためには「美しすぎる」解答ではなく、「微細を加えた」解答を示した、週末・長期休業中課題を作成しよう。

まずは、小テスト満点を目指す基礎力のアップを。そして、4プロ例題を真似たB問題に取り組む機会を一題でも増やそう。

英語

三年になっても、英単語の勉強に長い時間を支配されているようでは厳しいと思います。一、二年の間に英単語は身につけておきましょう。あくまでも小テスト合格のための短期的努力で終わらせないようにしてほしいものです。また、週末課題の取り組み方も、不正解の部分があるのに、全て○で提出をするような、誰のための課題なのか、と思う状況があります。答え合わせのやり方が、形だけになっているのが大変気になります。何を自分は理解しているのか、答え合わせのやり方が、形だけになって答えれば正解なのか、しっかりと答え合わせで確認をしてほしいと思います。

語彙力やリスニングの力などは、地道な努力が必要な基礎体力に当たる部分です。スポーツでも何かの技能でも、上達するためには基礎力が必ず必要であるのと同じです。課題や小テストは、その基礎体力をつけるのを促すために行っています。

それらの上で、身につけたい力や試されている力（つまり学力試験や入試で求められる力）は、皆さんの情報を整理し要点を見つけ出せること、また求められる立場に沿って、根拠や理由を示しながら、自分の考えが伝えられること。大きくこの二点だと思っています。それを日本語や英語で表現していく力をつけるのが目標です。週末課題のやり方の話も出しましたが、長文のワークをしたり、文法のまとめをしたりするのは、前述べた二つの力をつけるための手段の一つです。是非目的を理解して、取り組んでほしいと思っています。

Topics

世の中は、いろんなストレスだらけです。七十四回生はそのストレスの捌け口が、側にいる仲間とかに向いてしまうような問題行動、中傷の話が出ることもなく、ここに至っていることはありがたい限りです。ただ、ひよつとしたら「先生の目は節穴か？」ということがあるのかもしれない。

自分の中にあるストレスと、上手に向かい合って、学校生活を程よいストレスとともに過ごしてもらいたいものです。

美術部の生徒達に依頼して、こんなものを作ってもらいました。大したストレスの発散にはならないかもしれませんが・・・。因みに、僅か一日で負傷、現在入院中です。なかなかバランスを取るのが難しいようでも、負けませんよ。



入試問題を知ろう

三年生餞（はなむけ）号として大学入試問題ってどんなものかを少し紹介します。多くを掲載できませんが、二年先にこんなところも興味を持ってほしいなあ。（実感）
今回は、国立公立大学総合選抜型入試（十一月頃実施）から紹介します。

最近では、昔で言う「赤本」だけでなく、各大学のホームページ上でも紹介されています。三年になってからではなく、「今から」興味を持ち問題を知りましょう。

岡山大学理系

（グローバルディスカバリープログラム）

令和四年度数学

記述問題（理系）
「数学」

以下の問いに答えよ。

問1 次の連立方程式を解き x, y, z の値を求めよ。

$$\begin{cases} xy = 12 \\ yz = 20 \\ zx = 15 \end{cases}$$

問2 $\sin x + \cos^2 x$ ($0 \leq x \leq 2\pi$) の最大値と最小値を求めよ。

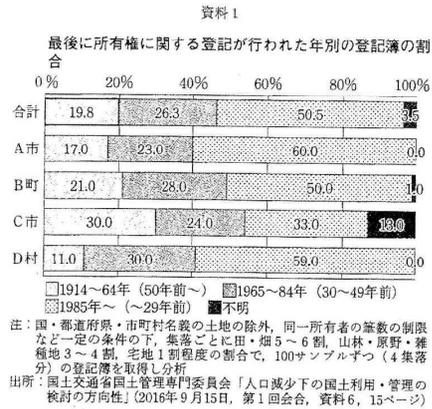
問3 xy 平面上で、点 $(2, 0)$ を通り y 軸に接する円の中心の軌跡を求めよ。

問4 次のデータの平均、分散、標準偏差を求めよ。
 データ (16, 26, 16, 26, 31)

広島大学法学部

令和四年度小論文（一部抜粋）

増加する見込み」と分析している。



また、法務省が2017年に全国10地区を対象に行った調査によると、50年以上にわたって登記の変更がなく、相続登記が未了となっているおそれのある土地は、大都市では6.6%、中小都市・中山間地域では26.6%にのぼっている。
 こうした土地を利用するためには、不動産登記簿上の何十年も前の情報から相続人全員を特定し、同意をとりつける必要がある。戸籍や住民票を通るといった膨大な作業が必要になる。

問題は8ページからなります。

以下の文章は、【1】と【2】が吉原祥子『人口減少時代の土地問題』（中公新書・2017年）の一部を、また、【3】は読売新聞・2021年6月11日朝刊の記事を抜き出したものである。これらの文章を読んで、後の問題1～問題3に答えなさい。

【1】
 相続を相続に前継の土地の所有者となり、戸惑う人が増えている。
 「田舎の土地を相続したが、自分たち夫婦には子どもがいなくて、自分の代で手放したいが、買手も買付先も見つからず困っている」
 「いずれ実家の土地を相続する予定だが、東京に暮らす自分は父親が所有する山には行ったことがなく、どこにあるのかもわからない」
 こうした声を周囲で耳にするようになった。司法書士などによる法律相談や不動産会社による相続対策セミナーが活況を呈し、相続対策を取り上げた書籍や雑誌も目立つ。
 そうした声と時を同じくして、近年、問題として認識されつつあるのが土地の「所有者不明化」である。
 所有者の居所や生死がすぐにはわからない、いわゆる所有者不明の土地。災害復旧や耕作放棄地の解消、空き家対策など地域の支障となる例が各地で報告されている。国土交通省の2014年調査では私有地の約2割が所有者の把握が難しい土地だという。
 個人の相続と、土地の「所有者不明化」、一見関係ないかに見えるが、実はその間には土地の権利と管理をどのように次世代に引き継いでいくのか、という大きな課題が横たわっている。

<中略>
 土地所有者の所在や生死のゆえがわからなくなる大きな要因に、相続登記の問題がある。一般に、土地や家屋の所有者が死亡すると、新たな所有者となった相続人は相続登記を行い、不動産登記簿の名義を先代から自分へ書き換える手続きを行う。ただし、相続登記は義務ではない。名義変更の手続きを行うかどうか、また、いつ行うかは、相続人の判断にゆだねられているのだ。
 そのため、もし相続登記が行われなければ、不動産登記簿上の名義は死亡者のまま、実際には相続人の誰かがその土地を利用している、という状態になる。その後、時間の経過とともに世代交代が進めば、法定相続人は必ずしも算式に増え、登記簿情報と実態とがかけ離れていくことになる。
 相続登記は義務ではなく任意であるため、こうした状態自体は違法ではない。しかし、その土地を新たに利用する話を持ち上がった時、第三者が所有者に連絡をとろうとする場合、支障となる。
 国土交通省が2014年に行った調査によると、全国4市町村から100地点ずつを選び、登記簿を調べた結果、最後に所有権に関する登記が行われた年が50年以上前のものが19.8%、30～49年前のものが26.3%にのぼった（資料1）。この結果について国土交通省は、「所有者の所在の把握が難しい土地は、私有地の約2割が該当すると考えられ、相続登記等が行われないと、今後も

<出典>

【1】：吉原祥子『人口減少時代の土地問題』（中公新書・2017年）5～6頁、9～11頁
 【2】：吉原・同書22～28頁、30～31頁
 【3】：解説＝阿部文章、読売新聞2021年6月11日東京朝刊12頁
 (注) 出題にあたり、縦書きであった原文を横書きに改めた。また、出題の都合上、語句の説明を付するとともに、原文の一部・図等の省略、表現を改める、ルビを振る等の必要な変更を行った。

問題1 【1】によると、筆者は、土地の所有者不明化と相続との間にどのような関係があると述べているか。その内容がわかるように説明しなさい。

問題2 【1】と【2】の筆者は、「権利の放棄」について、なぜそれが起きると考えているか。その内容がわかるように説明しなさい。

問題3 【3】は、所有者不明土地の解消に向けた法改正等についての新聞記事である。この法改正等でどのような仕組みが設けられたかを説明しなさい。また、それらの仕組みがその効果を発揮するためには、どのようなことが問題になると考えられるか。文章全体の内容も踏まえつつ、あなたの考えを述べなさい。

「私はこう思う」を考える習慣の大切さ、基礎基
 本の大切さを感じてもらえればと思います。
 受験機会は増えても、準備することはそれぞれで
 全く異なります。利用したければ、準備すること、
 やることが倍以上に増えますね。

追伸
 七十四回生の学年通信は、毎月初めに本校ホームページのTOPページから見ることが出来ます。
 写真等は、カラーで見られるので、よろしければ機会を見てご覧下さい。

ちようど残リスペースにあわせて、こんなことを
 今月は勧めます。
 「あれもしたい、これもしたい」と考えることを
 すべてしようとする、される方も大変です。
 「腹八分目」
 優先順位をしっかりとつけ、自分自身の想いもコントロールしながら、すき間を作って余裕を持たせるように、自分の行動を自制してみてください。
 言いたいことばかりで綴っていたこのコーナー。
 今回は少しだけ自制しました。

五月	「無駄」
六月	「諦めない」
七月	「捨てる」
一学期末	「チャレンジ」
九月	「さかのぼる」
十月	「テレビ」
十一月	「大空間」
十二月	「無」
一学期末	「こだわり」
一月	「信念」
二月	「探る」
三月	「自制する」

今月の勧め